

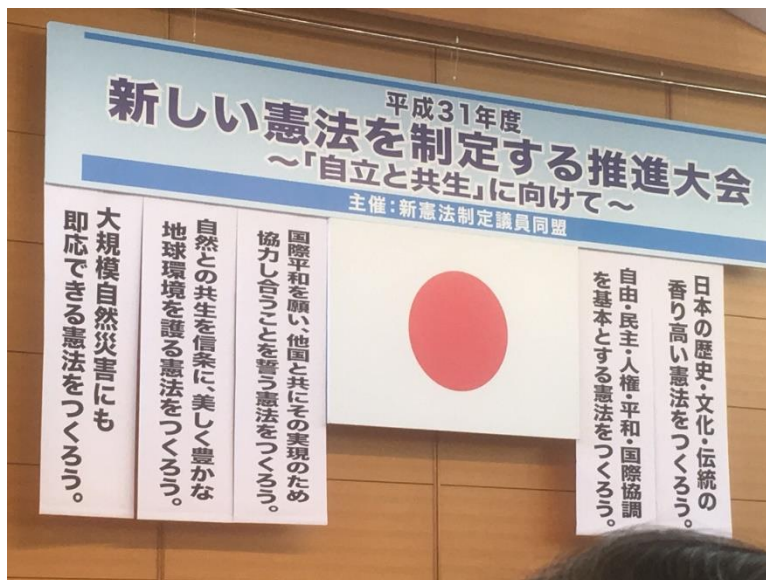
折々の記 No265：令和に相応しい新憲法を！

(平成最後の新憲法制定推進大会参加所見) (平成31年4月13日記)

毎年参加している新憲法制定議員同盟(会長中曽根康弘氏)主催の「平成31年度新憲法制定推進大会」に参加した。本稿はその報告・所見である。

1 実施概要

- ・ 日時 平成31年4月23日(火) 1530～1800
- ・ 場所 憲政記念館
- ・ Ⅰ部 記念講演 八木秀次氏(麗澤大学教授)
葛城奈海氏(ジャーナリスト、俳優、防人と歩む会会長)
雅楽演奏 東儀秀樹氏(雅楽師)
- ・ Ⅱ部 国歌斉唱、会長挨拶、来賓挨拶(自民党総裁)、各党等代表挨拶、大会決議



2 葛城奈海氏記念講演から

- ・ 尖閣事件に衝撃を受けた 民主党政権下であったが、歴代自民政権で同様のことが起き得た？
- ・ 戦後体制の醜悪さ 尖閣に日本人が近づくのを制止し、中国公船は黙過(国有化後に一海里宣言し、日本人・舟は近づけない)
- ・ 比もパラオですら毅然と対応しているのに
- ・ 日本を取り戻したい。
- ・ 日本とは 神話は歴史的事実ではないとしても日本の精神 八紘為宇 建国の精神が凝縮 日本人が忘れたもの
- ・ 戦後日本の平和は 9条でも日米同盟でもない 先人の大和魂の発露
- ・ 大和魂 和魂と荒魂の両立
- ・ 先人に恥じぬ憲法に、9条2項を残したままで良いのか？

3 八木秀次氏の記念講演

レジュメあり

- ・憲法に自衛隊を明記する意義
 - ・国民投票で自衛隊を承認する意義
- その他割愛

4 間もなく101歳となる中曽根康弘会長のメッセージ、安倍自民党総裁のメッセージ

5 各政党等挨拶

- ・参加政党 自民党、公明党、日本維新の会、希望の党が参加、立民、国民、自由党不参加
- ・公明党の発言は隔靴搔痒の感あり、残念だ
- ・自民党の条文イメージ



- ・経団連、日商、青年会議所、岩手県議会代表

6 大会決議

前文

我ら日本国民はアジアの東、太平洋の波洗う美しい北東アジアの島々に歴代相承け、天皇を国民統合の象徴として戴き、独自の文化と固有の民族生活を形成し発展してきた。

我らは今や、長い歴史の経験のうえに、新しい国家の体制を整え、自主独立を維持し、人類共生の理想を実現する。

我が日本国は、国民が主権を有する民主主義国家であり、国政は国民の信頼に基づき国民の代表者が担当し、その成果は国民が享受する。

我らは自由・民主・人権・平和の尊重を基本に、国の体制を堅持する。

我らは国際社会において、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、その実現に貢献する。

我らは自由かつ公正で活力ある日本社会の発展と国民福祉の増進に努め、教育を重視するとともに、自然との共生を図り、地球環境の保全に力を尽くす。

また世界に調和と連帯をもたらす文化の重要性を認識し、自国の文化とともに世界文化の創成に積極的に寄与する。

我ら日本国民は、大日本帝国憲法及び日本国憲法の果たした歴史的意義を想起しつつ、ここに新時代の日本国の根本規範として、我ら国民の名において、この憲法を制定する。

財団法人 世界平和研究所(会長 中曾根 康弘)

二〇〇五年(平成十七年)一月

7 総合所見

- (1) 従来とは違う大会決議内容(文言)に新たな意気込み・決意を感じた。
- (2) 憲法改正先送りの風潮、憲法審査会での議論すらないことに危機感
- (3) 尖閣一海里宣言は寡聞にして承知しておらず不明を恥じる。
- (4) 新元号「令和」に相応しい新憲法であらねばならない。日本の国体を明徴し、香り高い憲法を
- (5) 議論をすべき時は既に過ぎたのではないか?野党の延引戦術としか思えぬ。